

# 野村マイクロ(6254)



# 野村マイクロ 超純水製造装置

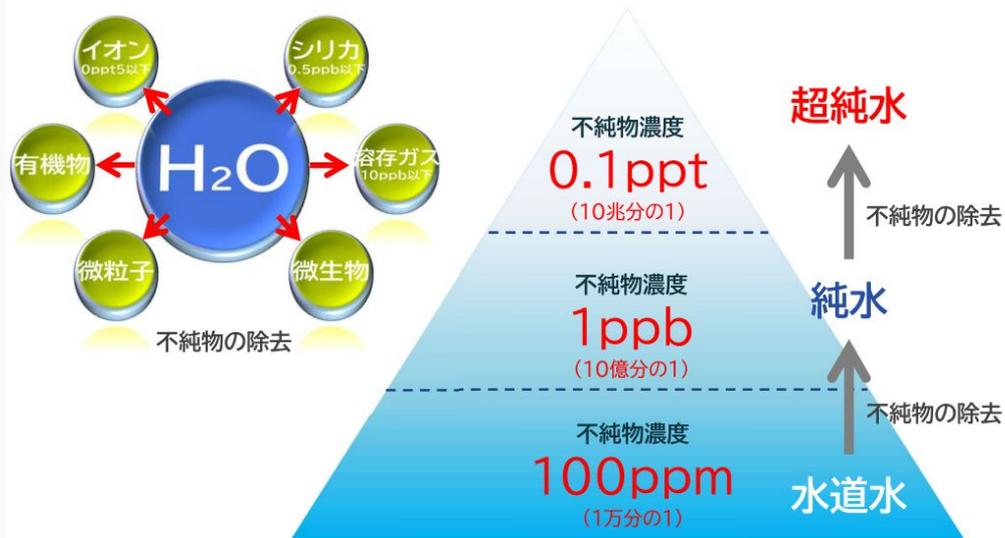


# 超純水は、あらゆる精密機械・医薬品に必要不可欠

## 超純水とは

“純度100%の理論純水”に限りなく近い高純度の純水

水中に混在する不純物を除去した水(純水)を更に精製して純度を高めたもの  
(理論純水(H<sub>2</sub>O)で満たした東京ドームの中に醤油が1、2滴含まれる程度)



## 半導体デバイス



## フラット・パネル・ディスプレイ



## 医薬品



# 超純水は半導体製造プロセスで超重要 微細化が進む程、使用量が増える(歩留まりに大きく影響)

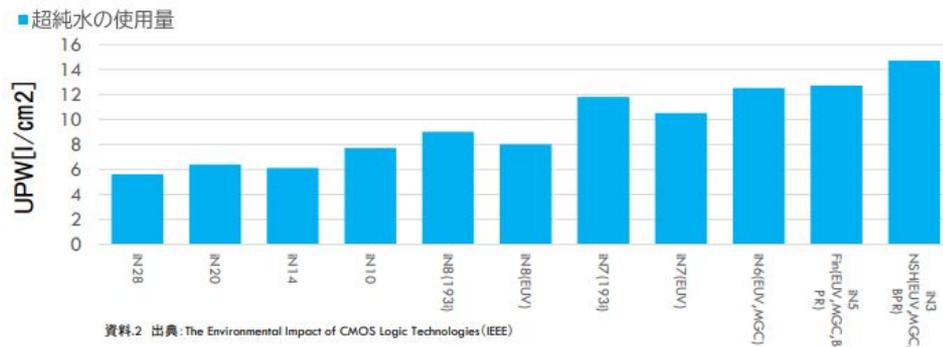


## 半導体製造工程の約3割は洗浄工程

主にフォトレジストの溶解やエッチングの除去、洗浄に使用



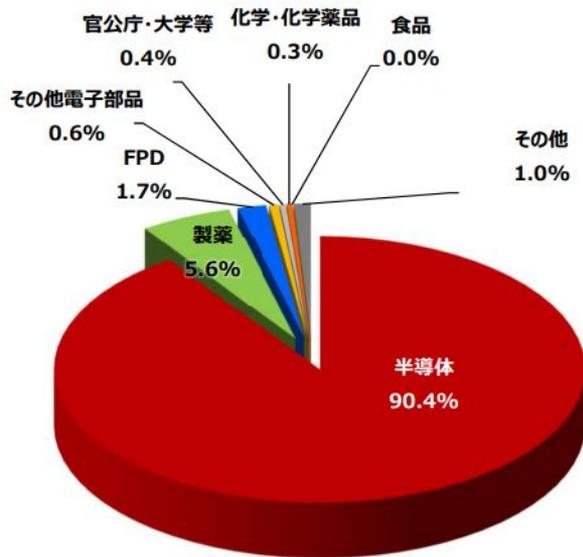
今後の微細化・多層化による洗浄工程の増加とともに、超純水の使用量は増加



# 近年は半導体向けが9割超と、需要が急速に増加

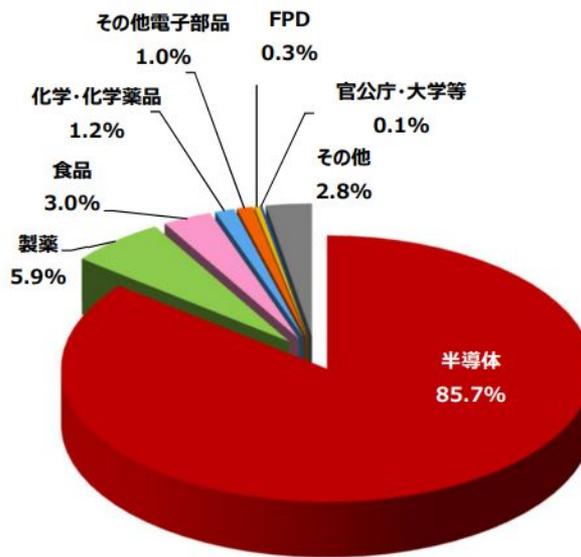
## 売上相手先別（メンテナンス・消耗品を含む）

2024年3月期 中間期



売上高 365億円

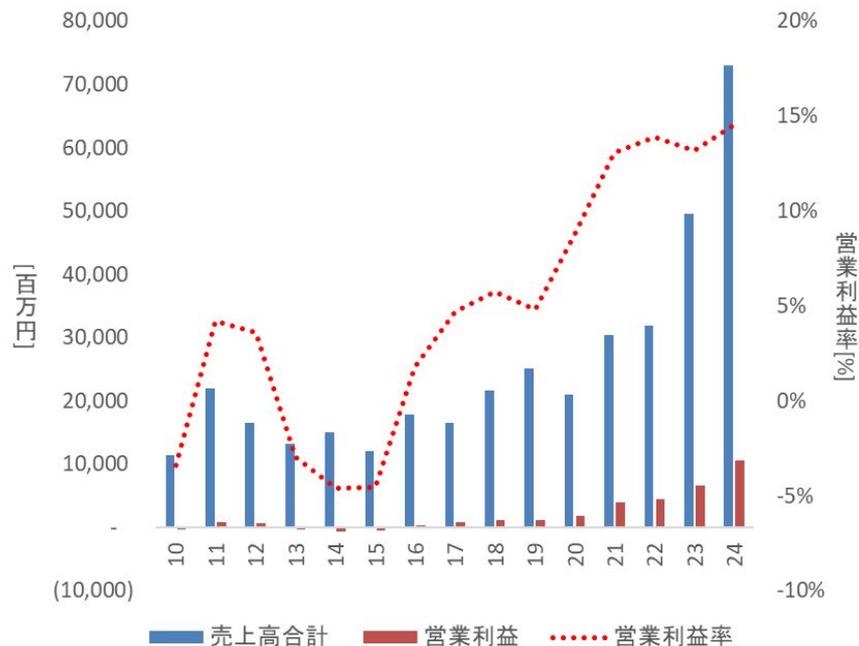
2025年3月期 中間期



売上高 180億円

# 業績・資本効率性ともに急上昇(だった)

## 売上・営業利益

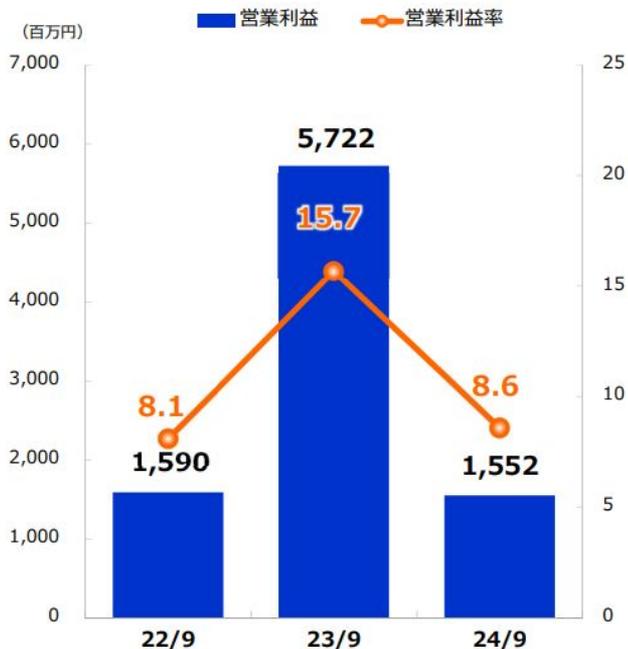


## ROE ROA ROIC

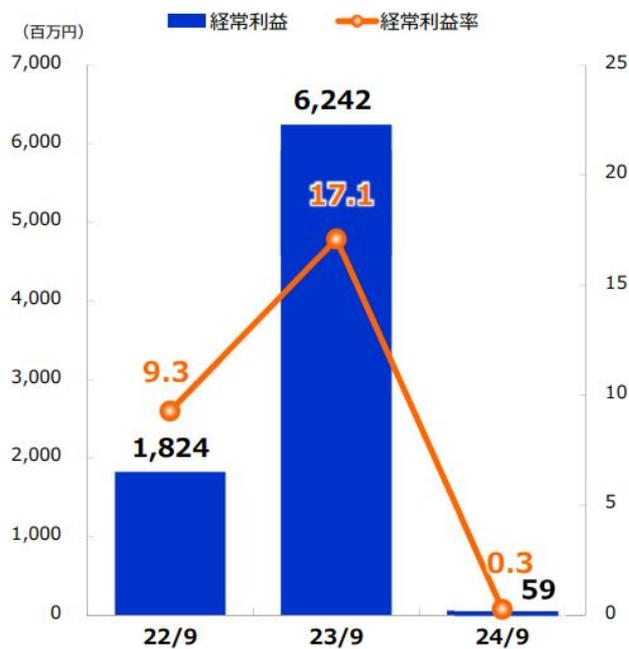


# 今期中間期決算では、対前年比で大きく落ち込む

## 営業利益



## 経常利益



野村マイクロ・サイエンス株式会社

8

# 主要取引先

## 野村マイクロ

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績に対する割合は次のとおりであります。

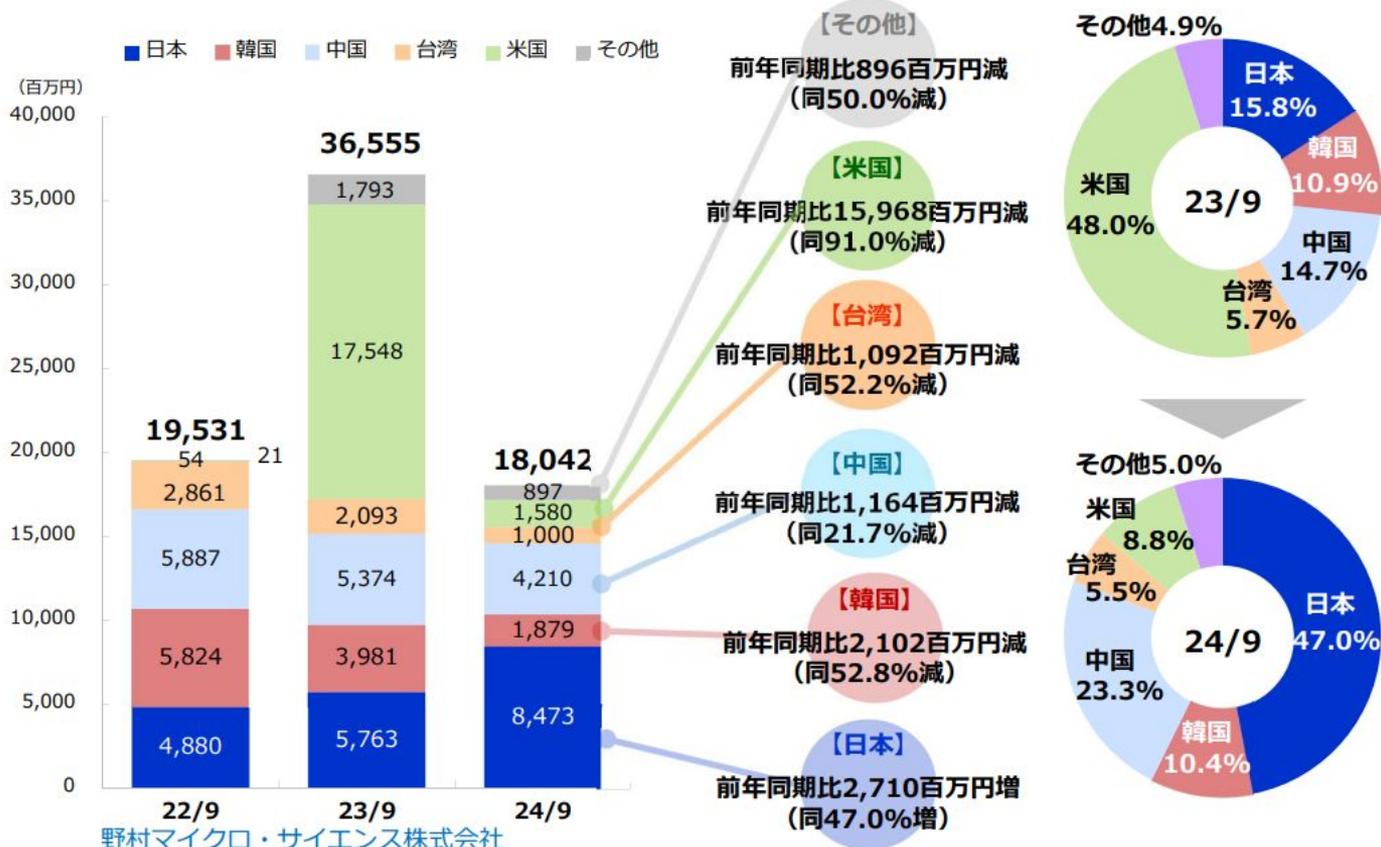
相手先	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
SAMSUNG AUSTIN SEMICONDUCTOR, L. L. C.	5,566,194	11.2	33,691,970	46.1
三星電子(株)	9,954,114	20.1	5,389,822	7.4

## オルガノ

2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合

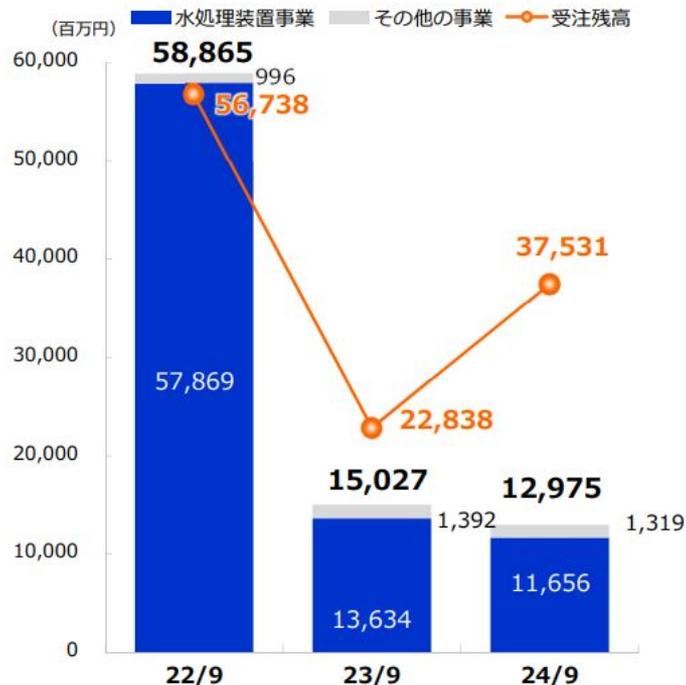
相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
Taiwan Semiconductor Manufacturing Company, Ltd.	—	—	23,198	15.4

日本国内案件の増加により同地域のシェアが拡大  
 上期は主要顧客の投資の谷間となり、米国・韓国は大幅に減収

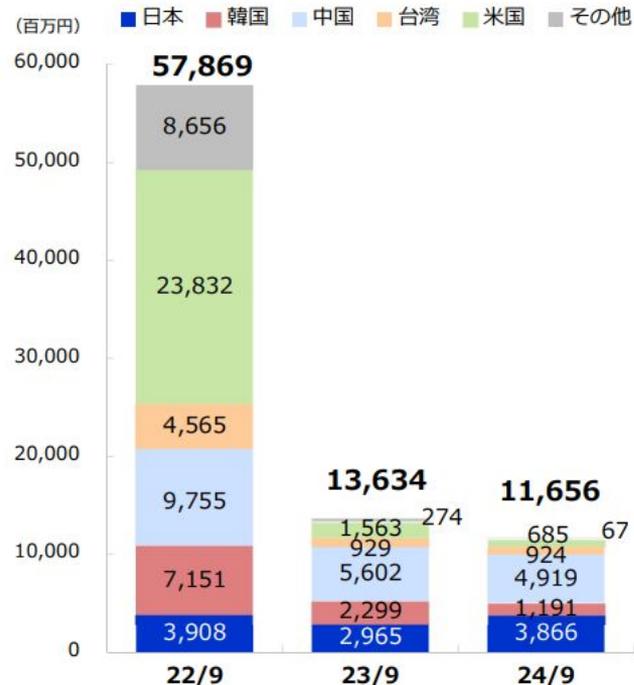


## 半導体関連の引き合いは堅調も上半期受注は低調

### 事業別受注高

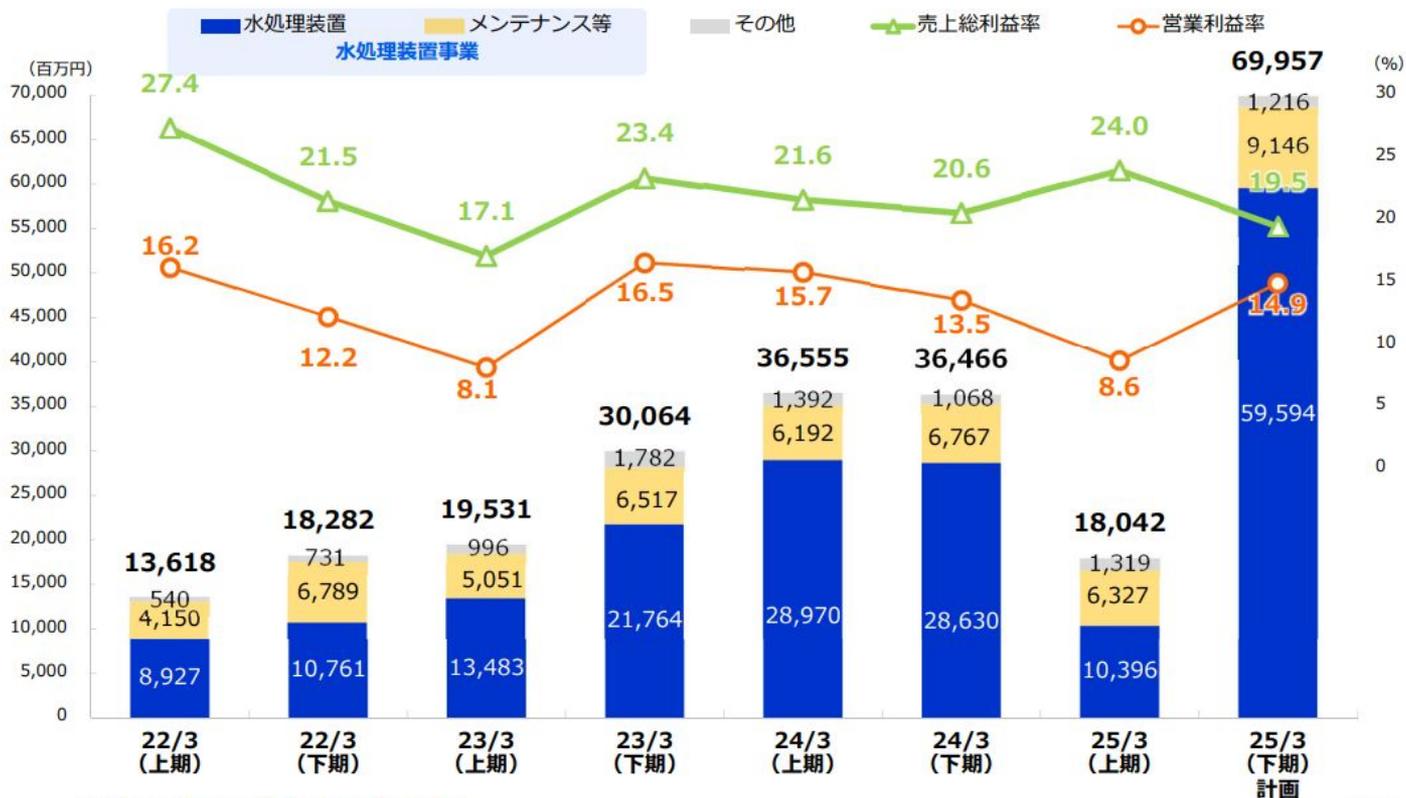


### 水処理装置事業の地域別受注高

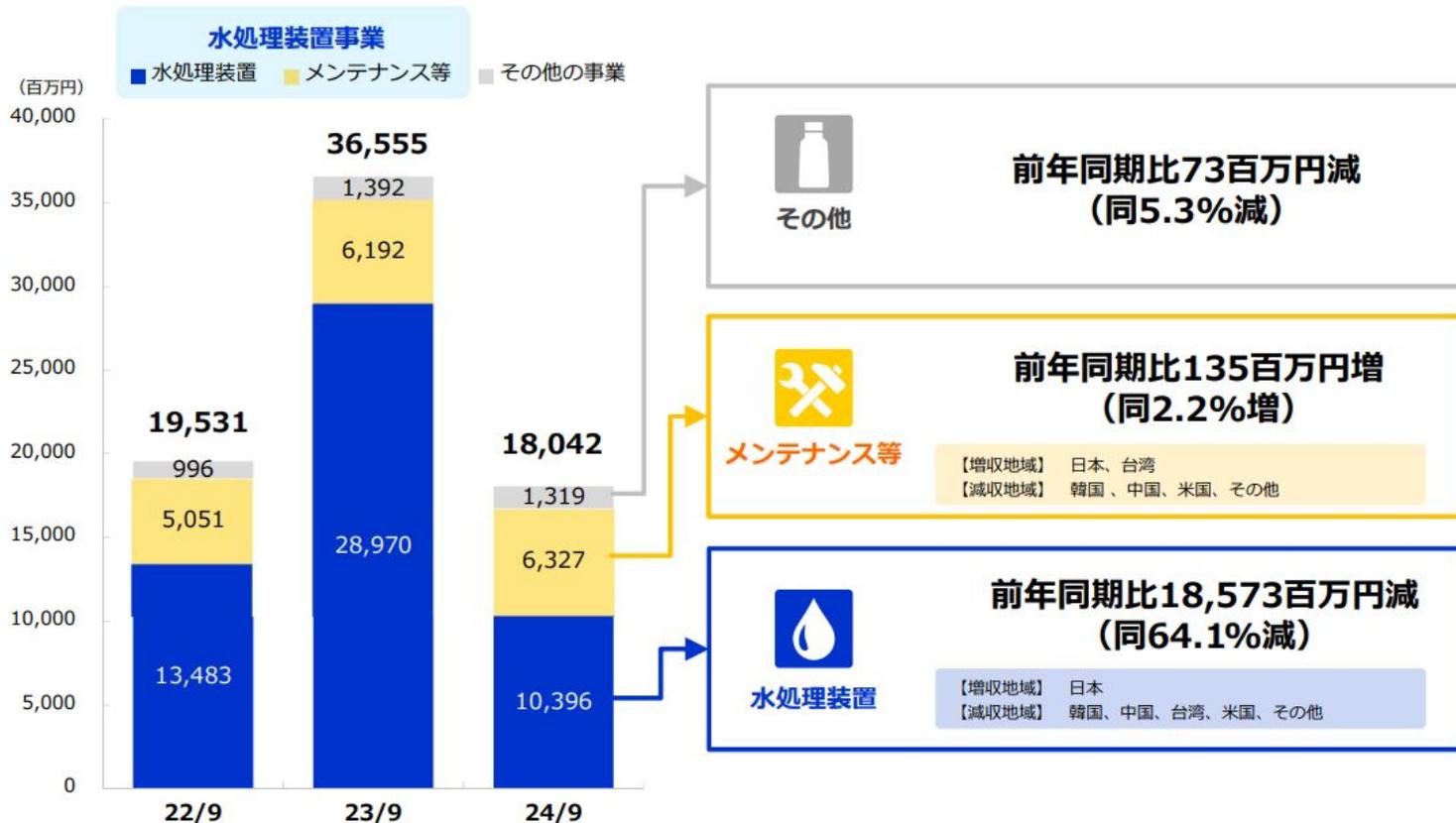


# 野村マイクロの業績推移予想

期初計画通り下期偏重の見通し～大型水処理装置の売上が寄与



日本国内では大型装置案件の増加により増収も、日本国内以外は装置売上が一巡し減収  
メンテナンスは概ね堅調に推移し増収



# Exclusive: Samsung delays taking deliveries of ASML chip gear for its new US factory, sources say

By Heekyong Yang, Hyunjoo Jin and Toby Sterling

October 18, 2024 4:39 PM GMT+9 · Updated 2 months ago



# 韓国が半導体製造用超純水の国産化に成功、2024年夏よりSK Siltronで使用予定

掲載日 2024/02/02 09:27

著者：服部毅



韓国電子産業

半導体材料

半導体市場動向 - 最新トレンド

韓国政府が進めてきた超純水製造プラントの国産化が成功し、2024年の夏から韓国シリコンウェハメーカーの一部の工場で採用に踏み切る模様である。

韓国政府は、2019年の日本の経済産業省による半導体輸出の厳格化をきっかけに、半導体材料の国産化を推進してきた。日本の水処理企業(栗田工業や野村マイクロサイエンスなど)に頼り切っていた半導体製造用超純水についても国産技術で製造することを2021年に決定し、「超純水の国産化」を政府の重点課題に選定して、研究開発を進めていた。

# 半導体大国の韓国・台湾、対米優位の維持に全力

国内生産に回帰する米国をしのぐノウハウ・意志力・供給網

The Wall Street Journal

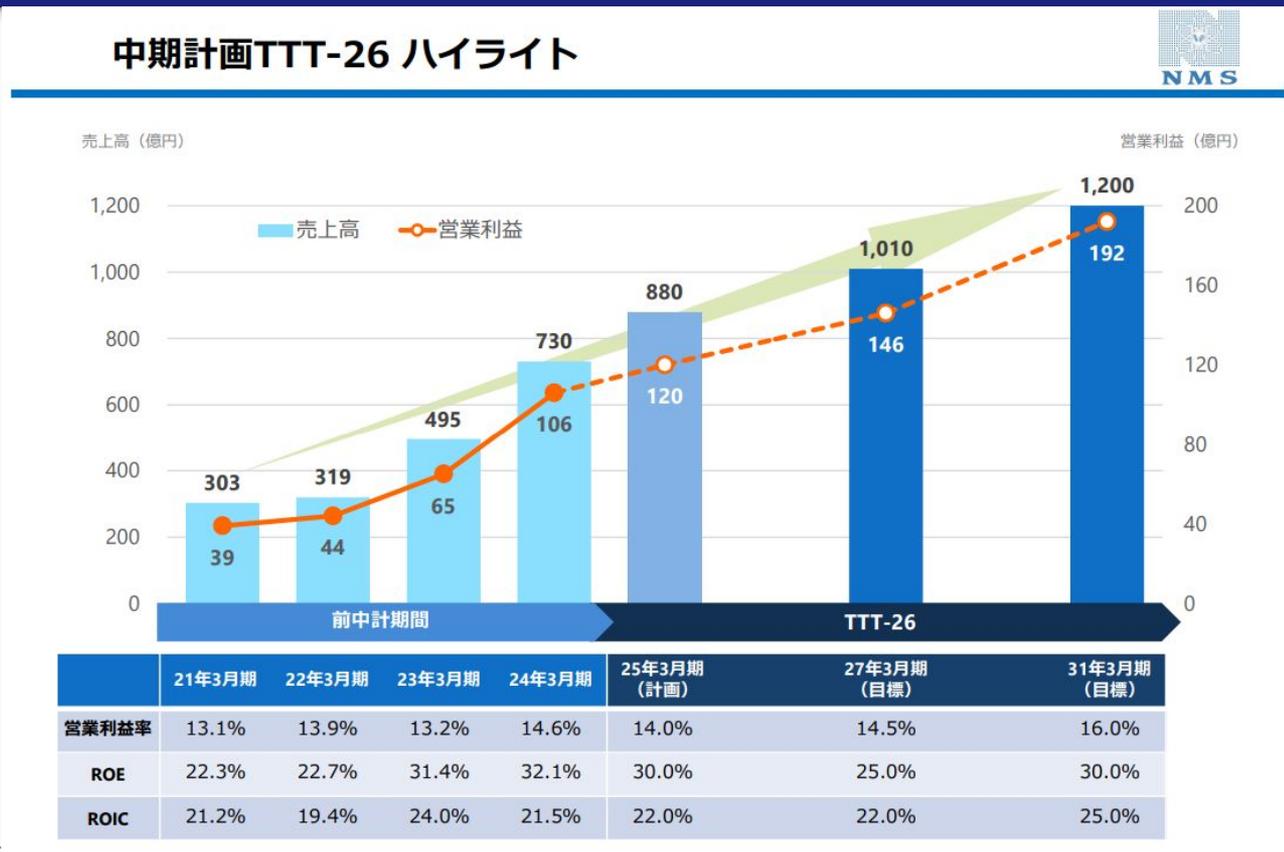
国際 | WSJ Pickup

2024.6.11 4:45 会員限定

韓国は将来の半導体製造に向けて、民間投資だけでおよそ4500億ドル（約70兆円）という巨額の「軍資金」を用意している。最近の業界の推計によれば、これは米国の半導体生産向けに充てられている金額とほぼ同じである。ユン政権は2050年近くまで見据えた計画で、37の工場が8都市にまたがり300万人を超える雇用を創出するという世界最大の半導体製造クラスターの構築を支援する方針だ。

韓台政府の攻勢は続いている。韓国政府は5月、半導体産業の強化に向けた190億ドルの支援策を発表した。ほんの数週間前に発表した金額を2倍超に引き上げた。台湾では昨年、研究開発費に対する25%の税額控除などの政府支援策が制定された。これらの資金は現在、現地企業による申請が可能となっている。

# 中計で示す右肩上がりの成長路線は、いばらの道！？

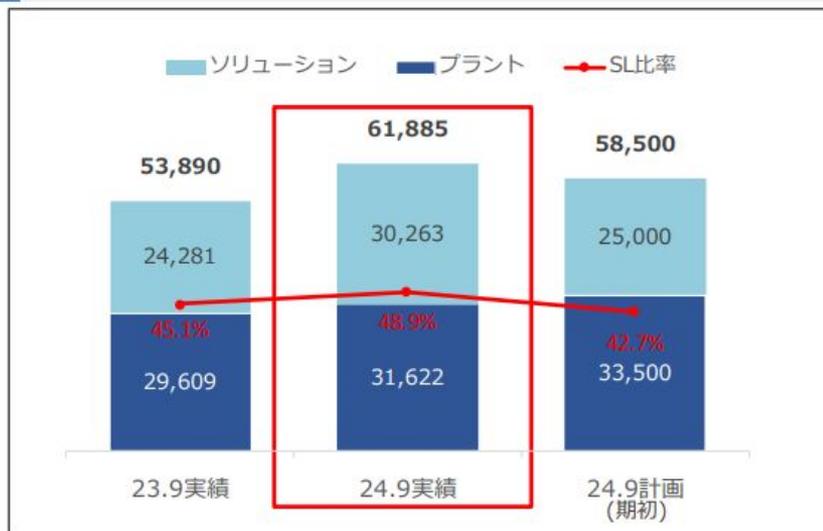




# 25.3期 上期実績：事業セグメント別・部門別売上高

(単位：百万円)

## 水エンジニアリング事業：部門別売上高



- プラントは国内で想定より進捗が下回ったものの、海外は好調に推移、引き続き高い水準の売上を継続
- ソリューションは設備保有型サービスの伸長や、メンテナンスや改造案件の増加などが寄与

## 機能商品事業：部門別売上高



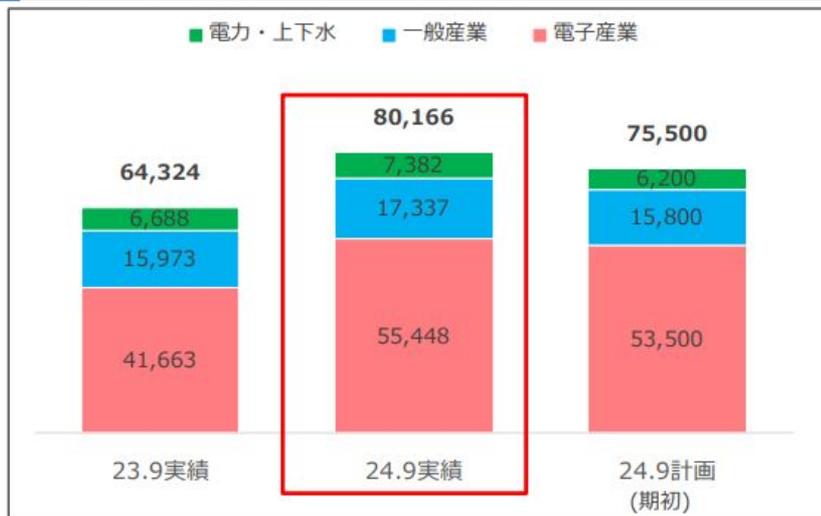
- 電子産業分野向けのRO膜処理剤や排水処理剤などの水処理薬品、半導体製造に用いられる薬液・溶媒など電子材料の高度分離・精製に用いられる機能材などの販売が好調に推移。

※従来水エンジニアリング事業：ソリューション部門に集計されていた分離精製事業を機能商品事業：機器・機能材分野に集計、グラフは組替後

## 25.3期 上期実績：市場別受注高・売上高（水エンジニアリング事業）

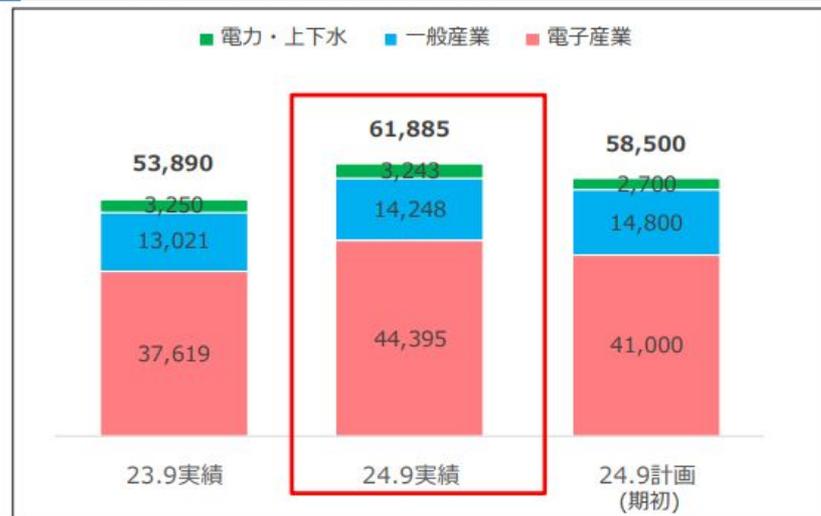
（単位：百万円）

### 市場別受注高（水エンジニアリング事業）



- 電子産業分野は台湾や中国での大型プロジェクト受注で伸長、国内では設備保有型契約などソリューション好調
- 一般産業分野はハイパーカミオカンデ向けの超純水設備や、電子周辺の案件など受注。電力・上下水分野は発電所の設備更新案件などを受注

### 市場別売上高（水エンジニアリング事業）



- 電子産業分野は海外でのプラント案件の工事進捗や、国内でのソリューション拡大など中心に伸長
- 一般産業分野は医薬・電子周辺などのプラント・ソリューション、社会インフラ分野は電力向けなど堅調に推移



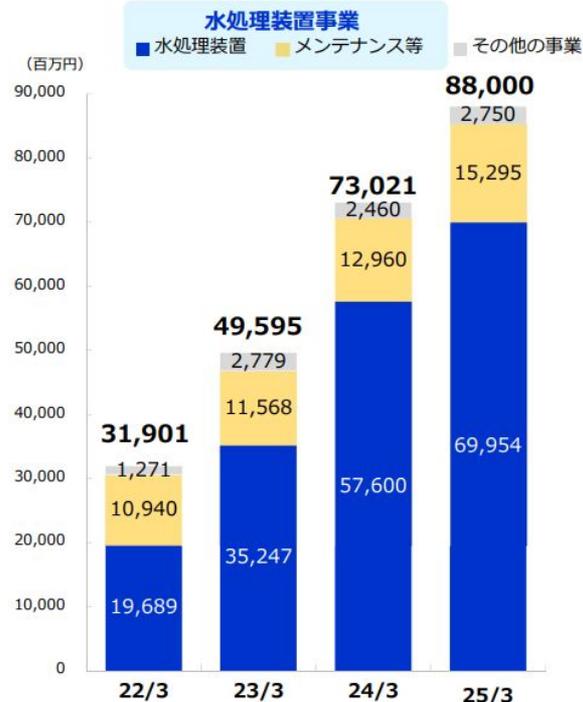






# アフターメンテ比率

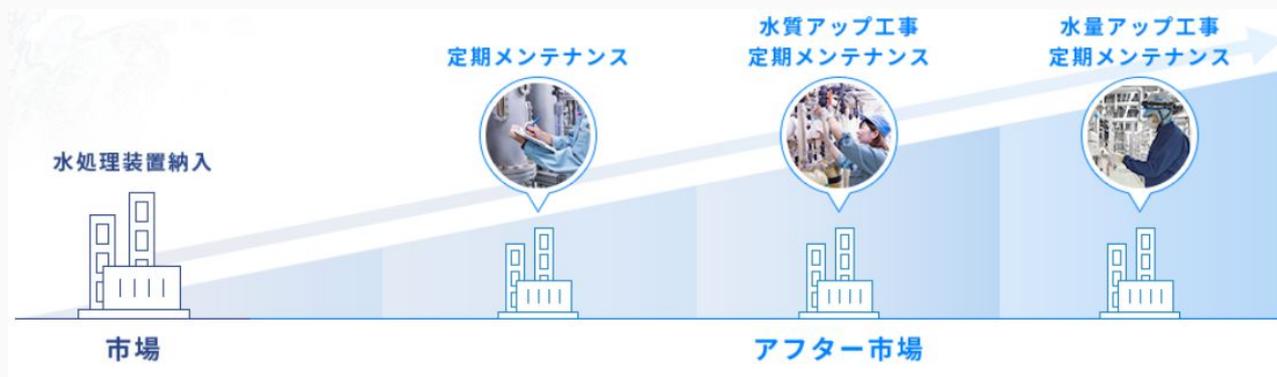
## 事業別売上高



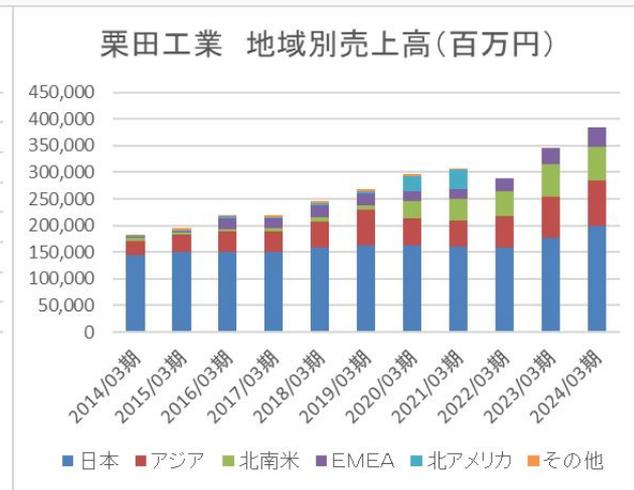
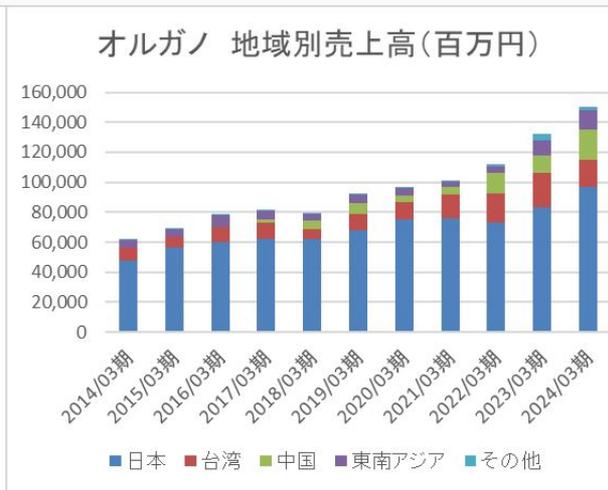
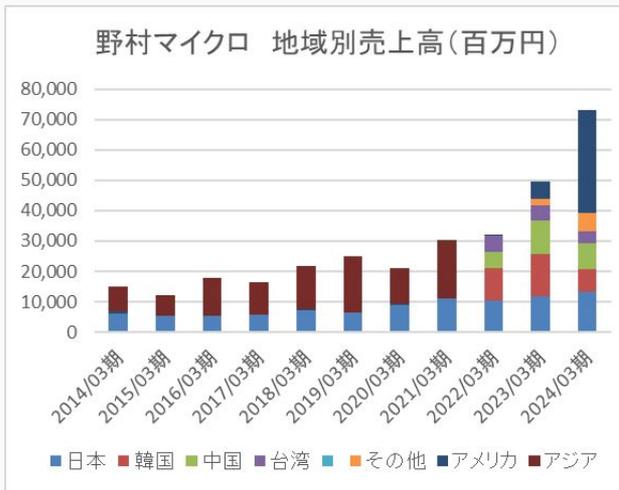
野村マイクロ・サイエンス株式会社 (計画)

元々はメンテナンス比率約3割。

足元は旺盛な受注状況により比率は下がるも、装置導入増に伴い、時間差でメンテナンス売上も上昇することが期待できる。



# 競合比較

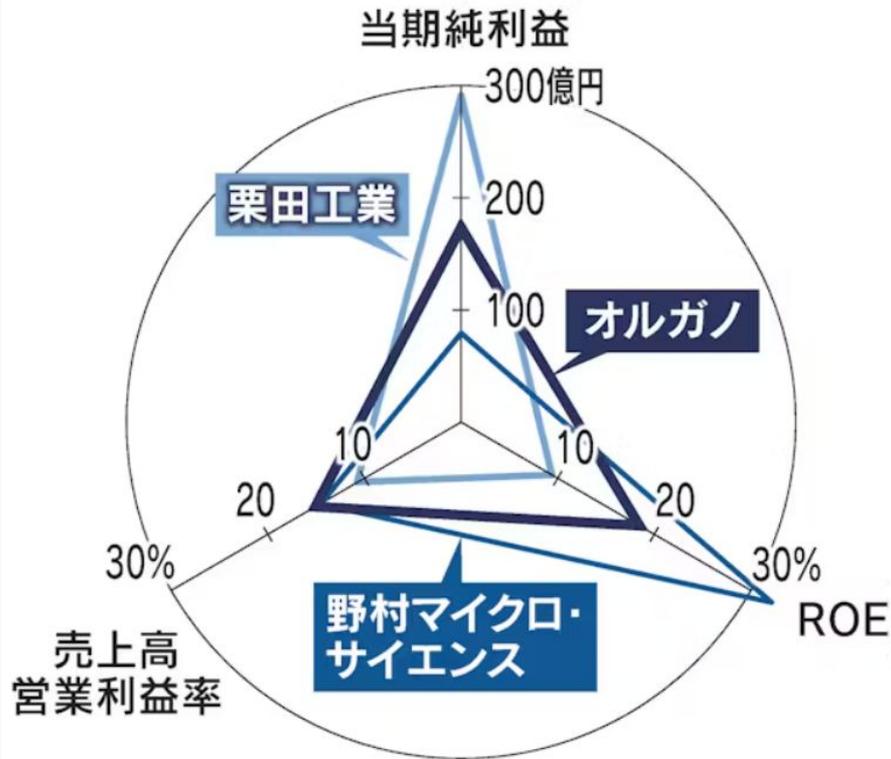


野村マイクロ: 北米案件が伸びる。

オルガノ: 特に近年は日本案件の伸びが大きい。

栗田工業: 特に近年は近年は日本案件の伸びが大きい。

# 超純水を手掛ける領域が広いほど利益額は大きい 資本効率性は低くなる



(注) 24年3月期実績

## 野村マイクロ

半導体向け売上構成: 9割超  
半導体向け世界シェア: 10~15%

## オルガノ

半導体向け売上構成: 7割前後  
半導体向け世界シェア: 20~30%  
製薬・食品・化学・機械

## 栗田工業

半導体向け売上構成: 4.5割  
半導体向け世界シェア: 35~45%  
幅広い業界に対応すべく、設備の標準化進む。鉄鋼・紙パルプなど重厚長大産業向けも。

# 強み・機会

## 【強み】

- ・サムスン向けの実績
- ・半導体向けに特化したエンジニアリング  
(超微量分析技術・サステナブル・カスタマイズ力、エネルギー効率、省スペース)
- ・領域特化により競合より資本効率性が高い
- ・半導体業界内でも景気変動リスクが低い(超純水は生産量に関わらず不純物除去に使う樹脂や薬品の性能維持のために水を流し続ける必要がある)
- ・アフターメンテ比率が高い

## 【弱み】

- ・半導体業界以外の領域は弱い
- ・世界最大ファウンドリ・TSMCはオルガノのシェアが高い

## 【機会】

- ・先端半導体市場の成長  
⇒先端品になるほど洗浄工程が増加する
- ・地政学リスクに伴う工場分散  
⇒生産量よりも工場(ライン)の稼働数に業績が連動する
- ・高いスイッチングコストに基づく大口顧客からの継続的な受注

## 【脅威】

- ・研究開発競争リスク
- ・為替リスク
- ・災害リスク
- ・地政学リスク

## 事業環境

### ● 世界経済

- ・ 欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞に伴う影響、地政学リスクの高まり等、景気下振れリスクは払拭されておらず不透明な状況が続くと予測

### ● 半導体市況

- ・ PC、民生用機器等は低迷も、生成AI向けサーバーの需要は拡大
- ・ データセンター増によるメモリー投資は回復基調
- ・ 生成AIやデジタルトランスフォーメーション（DX）の進化を受けて世界で半導体メーカー各社は設備投資意欲旺盛も、各マーケットのブレイクアウト時期を慎重に様子見し設備投資実施
- ・ 米国の対中規制強化は継続して動向注視が必要
- ・ 経済安全保障の観点から各地域（新興国：東南アジア、インド含む）にて自国での半導体製造拠点整備を強化

### ● 製薬市況

- ・ 新薬、バイオ製剤等を中心とした内需製薬関連投資が継続
- ・ 日本政府の医薬品関連サプライチェーン強化に向けた投資促進事業費補助金により加速